

院内感染対策サーベイランス事業報告（概要）（案）

1. 趣 旨

本サーベイランスは、院内感染に関する情報を提供することにより、医療機関における院内感染対策を支援することを目的とする。

参加医療機関については、自らの施設及び全体のデータについて、適宜閲覧できるよう情報の還元を行っているところであるが、今回、季報及び年報について、その概要をとりまとめたものである。

2. 対象病院

参加を希望した 200 床以上の医療機関

3. 参加形態

本サーベイランスは、参加形態により以下 5 つに分かれる。

- (1) 集中治療部門（ICU）サーベイランス
対 象：集中治療室に入室した患者
主な内容：患者の重傷度、感染症の発生状況、転帰等
- (2) 検査部門サーベイランス
対 象：血液、髄液の検体
主な内容：分離される各種細菌における薬剤感受性パターンや動向等
* 年報では、一患者からの重複検体は除かれて解析されている
- (3) 全入院患者サーベイランス
対 象：参加医療機関における入院患者
主な内容：MRSA、VRE、PRSP、カルバペネム耐性緑膿菌等による感染症の患者の発生率等
- (4) 外科手術部位感染部門（SSI）サーベイランス
対 象：手術後の患者
主な内容：手術後の創傷部位における感染の状況等
- (5) 新生児集中治療部門（NICU）サーベイランス
対 象：新生児集中治療室の入院患者
主な内容：感染症の発生状況、患児の体重等

4. 平成 16 年年報の状況

平成 16 年中の年報における患者数 797,062 人（病院 347 箇所）のうち、対象者は 25,226 人であった。

	患者数	対象者数
全 体	797,062 人	25,226 人
① ICUサーベイランス	10,633	435 (4.1%)
②検査部門サーベイランス	124,221	20,129 (16.2%)
③全入院患者サーベイランス	655,884	4,323 (0.7%)
④SSIサーベイランス	4,671	228 (4.9%)
⑤NICUサーベイランス	1,653	111 (6.7%)

(注 1) 対象は、各サーベイランス部門によって異なる

- ① 集中治療室入室 48 時間以降の感染
- ② 検体（血液、髄液）検査で細菌が分離された検体
- ③ 入院患者の耐性菌による感染
- ④ 手術後（一ヶ月経過観察）の外科手術部位の感染
- ⑤ 新生児集中治療室における感染

(注 2) 検査部門において対象者が多いのは、感染が疑われている者に対して検査が行われていることによる。

集中治療部門（ICU）サーベイランス

1 目的及び概要

本サーベイランスは、集中治療室における感染の状況を把握し、その対策を支援する情報を還元することを目的とする。

集中治療室に入室したすべての患者を対象としたサーベイランスを実施し、患者の重症度等と感染の発生状況との関係に係るデータ等を収集する。また、転帰データを収集することにより、感染リスクや重症度リスクを把握し、感染の患者転帰に対する影響の検討に資する。

2 特徴

- 集中治療室という場所に注目したサーベイランス
- 集中治療室入室48時間以降の感染が対象
- 感染率、感染の種類（肺炎、尿路感染等）、起炎菌等について、手術の有無、入出時の重症度、人工呼吸器などの器具（デバイス）の使用日数等を解析
- 重症度を指標にし、感染や細菌の耐性の有無が患者予後に及ぼす影響を調査

3 留意点等

- 院内感染対策のためのサーベイランスであるため、48時間以降の感染のみを対象とし、集中治療室入室時の感染を除いている。

4 平成16年年報の状況

- 10,633名の患者のうち、対象者は435名であった。
- ICUで発生する感染のうち約80%は肺炎であり、その起炎菌としてMRSAが最も多く約38%であった。
- 耐性菌による感染を発症した患者では在室日数、在院日数が延長した。

5 報告者について

- (1) 地域的範囲 全国
- (2) 属性的範囲 参加を希望した200床以上の医療機関
- (3) 報告施設の数 約20病院（患者数約1万人）
- (4) 記入及び提出方法 施設の担当者が専用のソフトを使って提出

6 事項

①性別、②年齢、③ICU入室・体質、④手術有無、⑤APCHE（重症度分類）、⑥肺炎感染、⑦尿路感染、⑧カテーテル血流感染、⑨敗血症、⑩創感染、⑪その他感染、⑫デバイス等のデータ

7 解析表例

①性別・年齢階級別患者数、②重症度別各感染患者数、③年齢別感染患者数、④起炎菌別感染別感染患者数、⑤デバイス日当たりの感染患者数

検査部門サーベイランス

1 目的及び概要

本サーベイランスは、臨床分離される各種細菌における薬剤感受性パターンや動向を全般的に把握するとともに、新規耐性菌の早期検出を目的とする。

検査部門で取り扱う検体を対象としたサーベイランスを実施し、検体から分離された細菌の、抗生物質への感受性状況に係るデータ等を収集する。

2 特徴

- 参加医療機関における血液または髄液の検体についてのサーベイランス
- 耐性菌の有無にかかわらず細菌が分離されたものを把握
- 分離菌について、陽性率、菌の種類、患者の年齢、耐性の割合等について解析
- 年報においては一人の患者からの重複検体は除外

3 留意点等

- 血液、髄液には、基本的に細菌は存在していない（無菌）ため、菌が検出された場合は細菌感染があるということになる。
- 皮膚常在菌が検出された場合は、検体採取時における皮膚からのものである可能性も含まれる。
- 検査部門においてサーベイランス対象者が多いのは、感染が疑われている者に対して検査が行われていることによる。

4 平成16年年報の状況

- 124, 221名の患者より、163, 677件の血液または髄液が採取され、そのうち20, 129名の患者から病原菌が検出された。
- バンコマイシンに耐性を示す黄色ブドウ球菌の報告はなかった。
- VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）の報告はなかった。

5 報告者について

- (1) 地域的範囲 全国
- (2) 属性的範囲 参加を希望した200床以上の医療機関
- (3) 報告施設の数 約 240病院（患者数 約 12万人）
- (4) 記入及び提出方法 施設の担当者が専用のソフトを使って提出

6 事項

①性別、②感染名、③抗菌薬、④基礎疾患、⑤手術、⑥透析、⑤デバイス、⑥、⑦転帰等のデータ

7 解析表例

①陽性検査材料の頻度、②上位10菌種の菌分離頻度、③総分離菌数に対する菌種別菌分離頻度、④菌種別耐性頻度、⑤総検査材料数に対する耐性菌の分離頻度

全入院患者サーベイランス

1 目的及び概要

本サーベイランスは、院内感染対策として重要な薬剤耐性菌による感染の発生動向等のデータについて、患者の基礎疾患その他の背景因子、関連因子等を解析した結果を還元することを目的とする。

医療施設内の全入院患者を対象としたサーベイランスを実施し、MRSA、VRE、ペニシリン耐性肺炎球菌、カルバペネム耐性緑膿菌等による感染に係る臨床データ等を収集する。

2 特徴

- 参加医療機関における全入院患者を対象にしたサーベイランス
- 耐性菌による感染について把握
- 耐性菌感染について、罹患率（どれくらい発生したか）、基礎疾患、抗菌薬の使用状況等で解析

3 留意点等

- 全ての感染ではなく、臨床的に重要な耐性菌による感染についてサーベイランスを実施している。

4 平成16年年報の状況

- 655, 884名の患者のうち、対象者は4, 323名であった。
- 入院患者のうち耐性菌の感染率は約0.7%、罹患率（発生の率）は約0.5%であった。
- 耐性菌のうち、最も多いのはMRSAであり、入院患者のうちMRSAの感染率は約0.6%であった。

5 報告者について

- (1) 地域的範囲 全国
- (2) 属性的範囲 参加を希望した200床以上の医療機関
- (3) 報告施設の数 約70病院（患者数 約66万人）
- (4) 記入及び提出方法 施設の担当者が専用のソフトを使って提出

6 事項

①患者数、②保菌者数、③感染者数、④感染関連、⑤感染診断名（感染部位）、⑥基礎疾患名、⑦カテーテル・人工呼吸器、⑧抗菌薬等のデータ

7 解析表例

①薬剤耐性菌感染状況、②薬剤耐性菌保菌者数及び感染者数の推移、③年齢別薬剤耐性菌感染患者数の推移、④診療科別感染患者数の推移、⑤抗菌薬使用状況の推移

外科手術部位感染部門（SSI）サーベイランス

1 目的及び概要

本サーベイランスは、手術後の創傷部位における感染の状況を把握し、その対策を支援する情報を還元すること目的とする。

手術を受けた患者の手術部位感染を対象としたサーベイランスを実施し、手術創部の感染等に係る臨床データ等を収集する。

2 特徴

- 外科手術を行った患者を対象としたサーベイランス
- 手術後30日間経過観察を行い、耐性の有無にかかわらず外科手術部位感染を把握
- 手術後外科手術部位の感染について、手術手技、全身麻酔の有無、埋入物の有無等で解析

3 留意点等

- 手術部位の感染に対するサーベイランスであるため、例えば胃の手術後に起こった肺炎等は含まれない。

4 平成16年年報の状況

- 4,671名の患者のうち、対象者は228名であった。
- 直腸、胆道系、小腸、大腸、胃の術後には、感染の発生が比較的多く、それぞれ約25%、14%、11%、11%、10%であった。

5 報告者について

- (1) 地域的範囲 全国
- (2) 属性的範囲 参加を希望した200床以上の医療機関
- (3) 報告施設の数 約10病院（患者数 約5千人）
- (4) 記入及び提出方法 施設の担当者が専用のソフトを使って提出

6 事項

- ①患者数、②感染者数、③手術手技、④手術時間、⑤デバイス装置（挿入）日数等
- ⑥全身麻酔、⑦緊急手術の有無等

7 解析表例

- ①手術部位別発生状況、②全身麻酔有無別発生状況、③外傷有無別発生状況、④埋入物有無別発生状況、⑤腹腔鏡使用有無別発生状況

新生児集中治療部門（NICU）サーベイランス

1 目的及び概要

本サーベイランスは、新生児集中治療室における感染の状況を把握し、その対策を支援する情報を還元することを目的とする。

新生児集中治療室に入室したすべての患者を対象としたサーベイランスを実施し、患者の重症度等と感染の発生状況及び転帰に係るデータ等を収集する。

2 特徴

- 小児集中治療室という場所に注目したサーベイランス
- 耐性菌の有無に関わらず、小児集中治療室における感染が対象
- 感染患者について、出生体重、起炎菌、耐性、埋入物の有無等で解析

3 留意点等

- 新生児については、基本的には出生時に感染は無いことから、ICU部門のように48時間以降の感染といった限定はしていない。

4 平成16年年報の状況

- 1,653名の患者のうち、対象者は11名であった。
- 新生児における感染発症率は出生体重が1000g未満で多く、出生体重の増加とともに低下する傾向が見られるが、2000g以上で再び増加する傾向が見られた。
- リスク調整した感染率で見た場合、人工呼吸器装置を装置された2500g以上の患児で特に肺炎の感染率が高かった。

5 報告者について

- (1) 地域的範囲 全国
- (2) 属性的範囲 参加を希望した200床以上の医療機関
- (3) 報告施設の数 約 10病院（患者数 約 2千人）
- (4) 記入及び提出方法 施設の担当者が専用のソフトを使って提出

6 事項

①出生体重、②転帰、③入院日数、④耐性菌、⑤起炎菌、⑥デバイス使用日数等のデータ

7 解析表例

①感染患者数、②起炎菌別感染少数、③感染死亡率、④体重別感染数、⑤リスクで調整した感染率